

外国文化研究会 2018年度・2019年度活動報告

八 幡 雅 彦

外国文化研究会の成長の軌跡

私が初等教育科に移動して外国文化研究会を創設して2019年度で5年目を迎えた。最初の年である2015年度は1年の部員4名でスタートした。彼女たちに、大学の中国人留学生2名と日本人学生1名が非公式部員として加わり保育園訪問等の活動を行った。（『初等教育－研究と実践－』第42号、2016年3月、39～44頁「初等教育科における外国語・国際理解教育と外国文化研究会」参照）

翌平2016年度には7名の1年生が加わり11名となった。そして従来は、保育園や幼稚園を訪れて行う公演はすべて私が発案し指導していたが、この年からは学生たちがかなり自主的にやれるようになった。公演題目は学生たちが率先して提案し、私は英語の指導を行うという形に切り替わっていった。

2017年度の新1年生は5名でこの年の部員数は12名だったが、2018年度には一挙に9名の1年生が加わり部員数は14名となった。それに伴って活動はさらに活発化し、5月から令和元年となる2019年度には、はじめて2ケタとなる10名の1年生が加わり、部員数は19名までに増えた。

外国文化研究会は毎週水曜日1時から約1時間の活動を行っている。主な活動内容は、英語の歌、ゲーム、絵本の読み聞かせ等の練習をして保育園・幼稚園を訪問して披露あるいは園児たちと一緒にすること、オープンキャンパスやわくわくフェスティバルでの公演、留学生との交流等である。ここまで成長できたのもこの活

動を、決して無理することなく、5年間コツコツと続けてきた賜物だと確信している。2018年度と2019年度の活動を以下に振り返る。

なお両年度とも活動場所はすべて別府市内である。

2018年度－国際交流を取り入れた活動－

（1）第30回おじかキッズクラブ・国際交流Pat1

5月12日（土）・13日（日）

おじか少年自然の家

立命館アジア太平洋大学と別府大学の中国、台湾、ベトナム、ネパール、スリランカの留学生、大分・別府市内の小学生、そして初等教育科のこども幼児Canぶ研究会と外国文化研究会の学生たちが参加する国際交流イベントで、お互いの国の言葉を教えあい、日本の伝統的な遊びを体験するなどして交流を深め、国際理解に努めた。



おじかキッズクラブでの国際交流

（2）上人幼稚園児との交流 6月6日（水）

「ABC」「きらきら星」「BINGO」を園児たちに教え、一緒に歌った。次の年には小学校に上がる5歳児たちだけに非常に元気よく反応して

くれ盛り上がった。そのせいかある学生からは「園児の声にかき消されて自分の声が聞こえていないところがあった」という反省が上がった一方、別の学生は「きらきら星は英語にもなるんだよと言った後に子どもたちの驚く姿を見て嬉しかった」と述べた。終了後、上人小学校長を兼ねる園長先生から「いつか外国語活動の授業に来て欲しい」と依頼されたが、その中で学生たちは英語の歌を教えることができるのではないかという可能性を感じた。



上人幼稚園児たちと一緒に「BINGO」を歌う

(3) 別府大学中国人・台湾人留学生との交流会

7月11日(水) 別府大学63番教室

中国・台湾出身の7名の留学生とお菓子を食べながら交流会を行った。彼らは私が大学の英語の授業で教えている中国人留学生たちとその友人たちであった。大学生活、日本の生活、将来の夢、趣味等について楽しくざっくばらんに語り合った。留学生の勉学に対する真摯な姿勢から多くのものを学ぶと同時に、友好関係と国際理解を深めた。



中国人・台湾人留学生との交流会

(4) 聖人保育園児との交流

7月18日(水)

聖人保育園には中国、スリランカの園児が在籍している。11日の交流会に参加した3人の留学生も加わった。「ABC」を歌った後、「きらきら星」を日本語、英語("Twinkle, Twinkle, Little Star")、中国語(「小星星」)で歌った。そして最後に「幸せなら手をたたこ」を日本語と英語を交えながらやった時は、園児たちも思いっきり体を動かしながら一緒に歌ってくれ非常に盛り上がった。先生方からも「また来てください」と喜ばれた。ある学生は「とても緊張したけれども練習通りにやれて良かったです。これからもがんばろうと思います」と述べ、上人幼稚園での反省が活かされたかたちとなった。



聖人保育園児と「きらきら星」を中国語で歌う

(5) 餅ヶ浜保育園児との交流

2019年1月9日(水)

餅ヶ浜保育園は外国人園児を積極的に受け入れている保育園である。この時、私はあいにく他の仕事で引率ができず、他の教員に引率を依頼し、ビデオを撮ってきてもらった。「アブラハムの子」と“Head Shoulders Knees & Toes”(「あたまかたひざぼん」)では学生たちの歌と動作に合わせて園児たちも元気よく体を動かしていた。その後2名の学生が *Dear Zoo* (『動物園へようこそ』)の大型英語絵本を読んだ。学生が、檻や籠に入れられて届けられてくる動物は何かを質問した時、園児たちはヒントを手掛かりに想像しながら大きな声で答えた。お別れの挨拶

の時に司会の学生が「今日楽しかった人はどれくらいいるかな?」と尋ねると、ほとんどの園児が「ハイ」と手を上げた。2018年度最後の活動を良い形で締めくくることができた。



餅ヶ浜保育園児に英語の大型絵本*Dear Zoo*を読む

2019年度－園児との交流を中心とした活動－

前述したように2019年度には10名の新生を迎え、活動はさらに活発になることが期待された。新生が入る前の3月22日(金)に行われた研究会・わくわくフェスティバル交流研修会では、外国文化研究会からは「小学生とも交流した」「いろんな国の留学生と交流したい」という希望が出たが、これらは実現できなかった。この年は保育園児、幼稚園児たちとの交流が中心となった。

(1) 上人幼稚園児との交流

6月5日(水)

前年度に続きこの年の活動も上人幼稚園児との交流から始まった。「曜日の歌」を英語で、「幸せなら手をたたこ」を日本語と英語を交えて園児たちと歌った。学生たちは「幸せなら手をたたこではみんなが笑って大きな声でやってくれて楽しさを共有できたという喜びでいっぱい」と述べた一方で、「曜日の歌があまり盛り上がりなかった。英語をあまり知らなかったというのものもあるけれども、もっと楽しめるようにすべきだった」という反省の声も聞かれた。

(2) 聖人保育園児との交流

7月11日(水)

「BINGO」「幸せなら手をたたこ」を歌い、*Dear Zoo*を読んだ。学生たちは「BINGOが楽しかった!」「幸せなら手をたたこはやっぱり人気で楽しそうにやってくれた」「絵本は動物の名前を日本語でも英語でも答えながら楽しそうな様子が見受けられた」と振り返る一方で、「前に出た時に成功させることに意識がいき笑顔が保てなかった」と反省した者もいた。この反省は後の幼稚園・保育園訪問に活かせることになる。

(3) オープンキャンパスでの公演

8月17日(土) 別府大学3号館ホール

オープンキャンパスの研究会紹介で175名の高校生たちの前で「BINGO」を歌い、大型英語絵本*Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?* (『くまさん くまさん なにみてるの?』)を読んだ。学生たちは高校生たちに「みなさんも園児になったつもりで参加して下さい」と呼びかけたが、さすがに気恥ずかしかったのか実際の園児のような反応はなく、聞くことが主体となった。しかし学生たちは精一杯やると満足した様子で、高校生たちのアンケート結果も「手作りのBINGOが可愛かった」「先輩と一緒に歌ったり手をたたいたりして楽しかった」「読み方が上手だし、英語の発音もきれいですごかった」「見る側の反応を見ながら絵本を読んでいた参考になった」と好評だった。

(4) 別府大学附属幼稚園児との交流

10月30日

Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? の読み聞かせに続き、「大きな栗の木の下で」を日本語と英語で歌い、最後に「幸せなら手をたたこ」を日本語の中に英語を交えて歌った。この時間帯、私は他の仕事と重なったため他の教員に引率を依頼し、後にビデオを見たが、学生たちと園児たちが心の底から楽しみながら交流している様子が映し出されていて、聖人保

育園での反省が活かされたことを実感した。

(5) わくわくフェスティバルでの公演

11月13日（水）別府大学第1体育館

今年のわくわくフェスティバルでの外国文化研究会の役割は10分間のつなぎで、英語教育をやっているという境川保育園の2, 3, 4歳児57名とともに「大きな栗の木の下」を体を動かしながら日本語と英語で歌った。境川保育園からは、後日、外国文化研究会も含めわくわくフェスティバル全体に対する礼状が絵、写真とともに送られてきた。



わくわくフェスティバルで境川保育園と一緒に「大きな栗の木の下」を歌う

(6) 春木保育園児との交流

1月30日（木）

学生たちの後期試験の最終日だった。試験を控えてなかなか練習時間が取れず、この日春木保育園に行く直前に最後の練習をして仕上げた。最初に大型絵本 *Baby Bear, Baby Bear, What Do You See?* (『あかちゃんくまさん あかちゃんくまさん なにみてるの?』) を読んだ。園児たちは次に出てくる動物たちを想像して大きな声で答えた。次に“Seven Steps” (1から7までの英語の歌) を元気な声で一緒に歌った。最後に“Head Shoulders Knees & Toes”の演奏に合わせて体を動かしながら踊った。徐々にスピードを上げていき、最後はかなりスピードアップしたがほとんどの園児たちが付いてきたのには驚いた。お別れのあいさつで司会の学生が「今日はみんな楽しかったかな」と尋ねた時、

ほぼすべての園児たちが「ハイ！」と手を上げ、2019年度最後の活動を成功のうちに終えることができた。



春木保育園児たちと一緒に“Seven Steps”を歌う

外国文化研究会の今後の課題

2018年度、2019年度の活動を振り返ってみて、外国文化研究会としては毎週水曜日の午後という練習時間を精一杯有効に使ってやってきた。2019年度にやりたくてもできなかったことにいろんな国の留学生との交流がある。また、2018年度に上人幼稚園児と交流した時に、小学校の外国語活動に来て教えてほしいという依頼があった。そして学生たちからも小学生とも交流したいという希望があった。今後はこのふたつの実現に向けて模索を続けたい。大分県の保育園、幼稚園、小学校には外国人の子どもが増えている。また2020年度から小学校では本格的な英語教育が始まる。これらの情勢に対応できる国際感覚を備えた人材の育成を目指して外国文化研究会は今後とも地道な活動を続けていきたいと考えてる。



2019年度の外国文化研究会の学生たち